

2011年7月29日(金) 18:45~19:20

【出席者】

取締役常務執行役員 小酒井 健吉

執行役員 営業本部 営業企画部長 登林 浩司

執行役員 開発本部長 村上 誠一

【2011年度第1四半期決算】

Q / レミケードの第1四半期の売上高について、前期と比べて伸びが鈍化しているように見えるが、要因は何か？

A / 震災に伴う前期末の一時的な受注増の反動と、各適応において競合が激化していることが要因と考える。

Q / 2011年度に発売予定のシンボニーについて、同じ生物学的製剤の関節リウマチ治療薬レミケードを含めた販売スキーム、販売戦略はどのようになるのか？

A / レミケードは当社単独で販売しているが、シンボニーについては、当社とヤンセンファーマが共同販売、共同プロモーションを行う。同じ抗TNF抗体製剤ではあるが、レミケードは、点滴静注製剤であり、効果の発現が早く、医療現場でのエビデンスが豊富であるのが特長である。一方、シンボニーは、皮下注製剤であり、長期間にわたって効果が持続するのが特長である。従って、皮下注製剤を必要とする患者さんに対しては、シンボニーをお使いいただけると考えている。

Q / 技術導出契約金等が、前年同期と比べて11億円増加しているが、何が計上されているのか？

A / ジレニアのロイヤリティ収入やTA-1790のマイルストーン収入のほか、複数のものが含まれている。

Q / 売上原価率について、第1四半期の実績(36.5%)が、当初の上期予想(38.8%)と比べて、大きく改善した要因は何か？

A / ラジカットの売上高が、後発品の発売時期の遅れにより当初想定を上回ったことや、レミケードなど海外からの購入価格が、為替影響(計画:85円/ドル)に伴い、当初想定を下回ったことなどが、主な要因である。

【2011 年度業績予想の修正】

Q / 今回の業績修正において、期初予想に織込んでいた品質管理問題の影響については見直したのか？

A / 業績修正を行った理由は、東日本大震災の影響が当初の想定より軽微に推移したことによるものであり、品質管理問題の影響については、当初の想定から修正していない。

Q / 業績修正を行ったが、製品別の売上高予想を開示していない理由は何か？ また、いつ頃開示するのか？

A / 7月19日に受けた行政処分の影響については、現時点では個別製品への影響額を見積るのが困難なため、開示を行っていない。今後、影響の把握に努め、第2四半期決算発表時に開示したいと考えている。

Q / 期初の売上高予想には、6つの新製品発売による増収効果を190億円織込んでいたようだが、今回の業績修正において、織込み額に変更はあるか？

A / 新製品の増収効果について、今回見直しを行った結果、約40億円予想を下げている。

Q / 技術導出契約金等の通期予想を、期初の54億円から今回60億円に修正している理由は何か？ また、本科目には何が含まれているのか？

A / 技術導出契約等に関する一時的なマイルストーン収入やランニングロイヤリティ収入を計上しており、ジレニアのロイヤリティのほか、複数のものが含まれているが、詳細は開示できない。期初予想と今回の修正予想の差は、予想数値の末尾を丸めたことによるものであり、当初織込んでいた計画を変更したものではない。

Q / 期初予想と比べて、売上高が20億円増加しているのに、売上原価が5億円減少している。為替以外の要因は何か？

A / ラジカットの売上高が、後発品の発売時期の遅れにより当初想定を上回る見通しであることなどによる製品構成差である。

Q / 三菱ケミカルホールディングスの2010年度決算発表資料に、上期に比べ、下期に医薬品原価50億円、販管費30億円が減少するとの記載があるが、今回の業績修正と関係あるのか？

A / 原価低減については、原材料や仕入商品における購入価格の引下げを中心としたあらゆる低減施策を織込んでいる。期初予想から織込んでおり今回の修正による変更はない。

Q / 研究開発費の上期予想について、第1四半期と比べて第2四半期が増加する要因は何か？ (第1四半期実績157億円、第2四半期予想188億円)

A / 第 2 四半期には、フェーズ 3 試験を開始した TA-7284 の開発費用が増加する。また、震災の影響により、開発費用の発生が第 1 四半期から第 2 四半期へずれ込んだことも要因の一つである。

Q / 今回の業績修正における為替の前提はいくらか？

A / 期初予想の 1 ドル=85 円を変更していない。

【開発パイプライン / 導出品】

MP-424(テラプレビル)

Q / Vertex の第 2 四半期決算発表において、Incivek(テラプレビル)の米国での売上高が、発売後 1 ヶ月強で 75 百万ドルに達したとの発表があった。一方、日本でも MP-424 の承認・発売を控えて、待機患者が発生しているとの話も聞くが、本治療薬についてどのように評価しているか？

A / 現在の治療満足度から、市場ニーズが非常に高い薬剤であると考えており、治験に協力いただいた専門医の先生方からも高い評価をいただいている。また、MP-424 を加えた 3 剤併用の新しい治療法が適応可能になるということで、この治療法を待っている患者さんがおられるという話は聞いている。

Q / 市場拡大により、海外からの原料やバルクの供給が不足するという懸念はないか？

A / そのようなことのないよう、製品の安定供給に向けて、準備を進めている。

【血漿分画事業の統合】

Q / 日本赤十字社との血漿分画事業の統合(6 月 17 日リリース)を進めているが、新会社はどのようなスキームになるのか？ 統合後、田辺三菱製薬の業績への影響はどうみておけばよいか？ また、田辺三菱製薬が、統合後の新社から設備投資の負担を要望される可能性はあるのか？

A / 現在、2012 年 4 月 1 日の統合に向け、日本赤十字社と詳細を協議しているところであり、現時点でお話できることはない。

【品質管理問題】

Q / 第 1 四半期において、品質管理問題の業績への影響は発生しているのか？ また、7 月 19 日の行政処分発表後は、どのような状況か？

A / 第 1 四半期においては、本問題の影響は想定よりは軽微である。行政処分を命じられた 7 月 19 日以降も変化はみられないが、今後、影響が出る可能性は否定できない。

以上